

鳥獣被害対策専門員に関する調査結果（福島県：平成28年度）

県内59市町村へアンケートを実施

Q: 専門職員の配置は必要か？

A: 専門職員の配置は、**県全体の約72%が必要**と回答

Q: 専門職員に期待する業務は？

A: 「被害状況の把握」「技術的支援」「被害防止計画の立案」の順に期待されている
各市町村の担当者は、**専門性の高い業務の実施**が難しい状況

Q: 専門職員を配置しない理由は？

A: 「**財政的に困難**」と「**人材の確保が困難**」が約80%を占めている



県内の多くの市町村が専門職員を必要と
考えている！！

鳥獣被害対策市町村専門職員育成支援事業のイメージ

○現状・課題

- ・市町村から県に対して市町村専門職員の配置支援の要望。
- ・専門職員の募集については、大学や専門学校などと連携し、人材の確保を図っているが、全国的な需要の高まりから、人材が不足している。

○対策

- ・県として市町村専門職員や候補者となる人材の確保が必要であることから、人材の確保・育成やマッチングする体制を整備。

鳥獣被害対策市町村専門職員候補者の確保・育成

確保

- 大学・専門学校へアプローチ
- バスツアーの実施
(県外の人材+大学専門学校生対象)

就活イベントの開催・出席
(学生・社会人)

育成

- 専門職員の役割の明確化
- 体系的な人材育成体制の構築

- 地域の実情を把握
- 鳥獣被害対策の実践研修
・生息状況調査、被害調査方法等

候補者と市町村等とのマッチング

鳥獣被害対策市町村専門職員育成支援

- 補助率・定額
1～2年目 2,000千円
(市町村等)

鳥獣被害対策市町村専門職員育成高度化研修

集合研修

- 地域の実情に応じた有効な対策の検討
- PDCAサイクルの実践
- 被害対策技術支援
(専門職員)



高度化研修

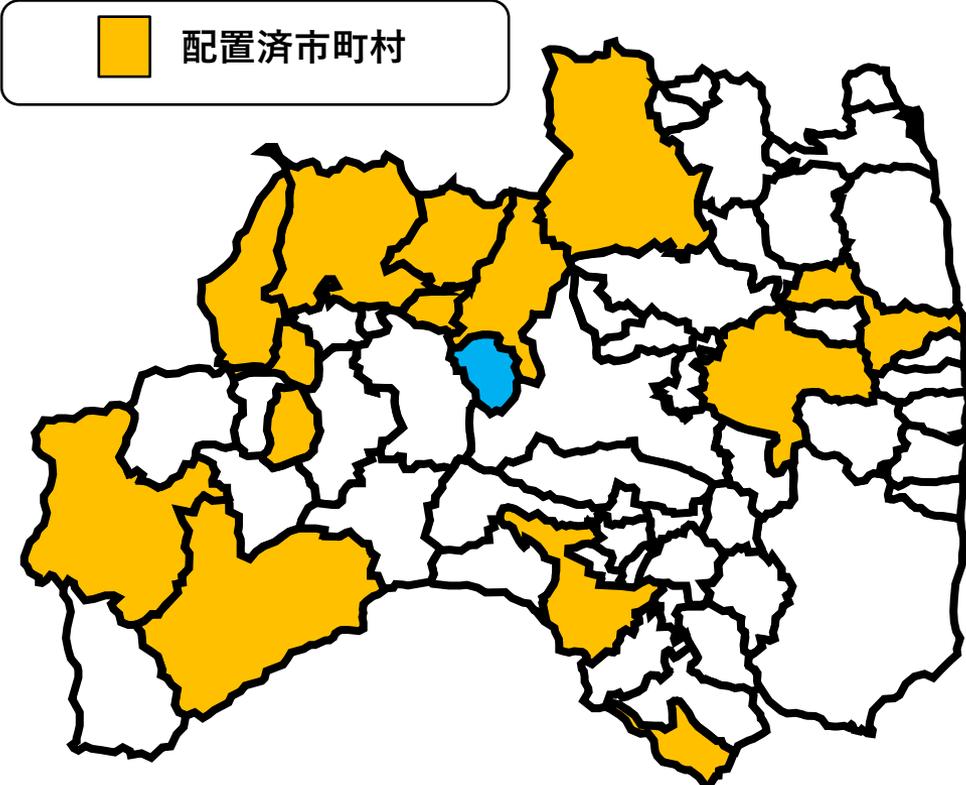
個別研修

- 個別支援
- バックアップ体制の構築
(専門職員等)

有害鳥獣被害対策により農業・農村の活性化

鳥獣被害対策市町村専門職員の配置状況

鳥獣被害対策市町村専門職員とは？
 → 野生鳥獣に関する専門的な知識を有し、市町村等において鳥獣被害対策の中心的な役割を担う職員



令和2年度野生鳥獣による農作物被害金額
 県内合計 約1億9,839万円

<地方別内訳>
 会津：約8,224万円 中通り：約1億1,166万円 浜通り：約449万円

県事業活用市町村

地域	市町村名	人数
県北	福島市	1名
県中	田村市	2名
県南	白河市	1名
	矢祭町	1名
会津	喜多方市	2名
	磐梯町	1名
	北塩原村	1名
	西会津町	1名
	柳津町	1名
南会津	只見町	1名
	南会津町	1名
相双	浪江町	2名
合計		15名

※県事業活用による人数

市町村専門職員を中心とした効果的な農作物被害防止体制の構築

5市町村による広域対策の取組み

-会津北部地域鳥獣害防止広域対策協議会-

当協議会は、会津北部地域の磐梯町、磐梯町、北塩原村、喜多方市、西会津町の5市町村によって構成されており、ツキノワグマ、イノシシ、ニホンザルなどの中・大型の野生鳥獣による被害防止対策の充実・強化を図るとともに、各関係機関や構成市町村と連携の下、鳥獣被害の軽減を目的として、平成20年度に設立された協議会です。

5市町村が連携し担当者の情報共有を密に行うことによって、イノシシやクマ対策をはじめ、サルの群れ管理やシカの生息域調査などを効果的に行うことが可能となります。

また協議会では、国から交付金を受け、パトロールや生息調査のほか捕獲用の罠やおりの購入や、住民とのワークショップや研修会の開催など幅広い対策活動を行っており、近年ではICT機器の実証試験やドローンを用いた生息調査事業など、先進的な取り組みを多数実施しています。

喜多方市

(鳥獣被害対策専門員1名)

万年雪を頂く飯豊連峰の麓、広大な農地が平地と中間地域に広がる自然豊かな喜多方市で、専門員の活動を始めて5年目となりました。

農作物を守るための防護柵の設置技術の普及や対策の現場に即した支援制度の創設など、集落内・行政組織内それぞれに被害防止のための体制づくりを行っています。



被害対策とは「やれば被害を無くせる自分たちにも出来る」と住民の方々に実感してもらう事を信念に、積極的に地区住民と対話し、住民主体で行う被害対策に向けた雰囲気づくりに努めています。

北塩原村

(鳥獣被害対策専門員1名)

村内の農作物被害は主にイノシシ、サルによるものであり、専門員は住民からの相談を受け、対策の提案や柵設置のお手伝いをしています。他にも定点カメラの設置、捕獲の補助として現場で活躍しており、今年度からはサルの管理のために発信機の装着にも力を入れています。



また、裏磐梯エリアはクマの生息域のため、観光客への注意喚起として裏磐梯クマ出没マップをピジターセンサーと連携して公開しています。



西会津町

(鳥獣被害対策専門員2名)

西会津町は、平成30年度より、鳥獣被害対策市町村専門職員育成支援事業を活用し、専門員を配置。

イノシシ被害の増加に合わせ、令和3年9月より地域おこし協力隊の1名を増員し、役場職員・猟友会と連携しながら対策を行っています。



磐梯町

(鳥獣被害対策専門員3名)

(協議会事務局担当)

磐梯町では、地域おこし協力隊の3名が鳥獣被害対策の専門職員として活動しており、それぞれ役割分担を行うことで、地域住民からの相談の対応や地域の状況にあった対策の提案・支援を行っています。



猪苗代町

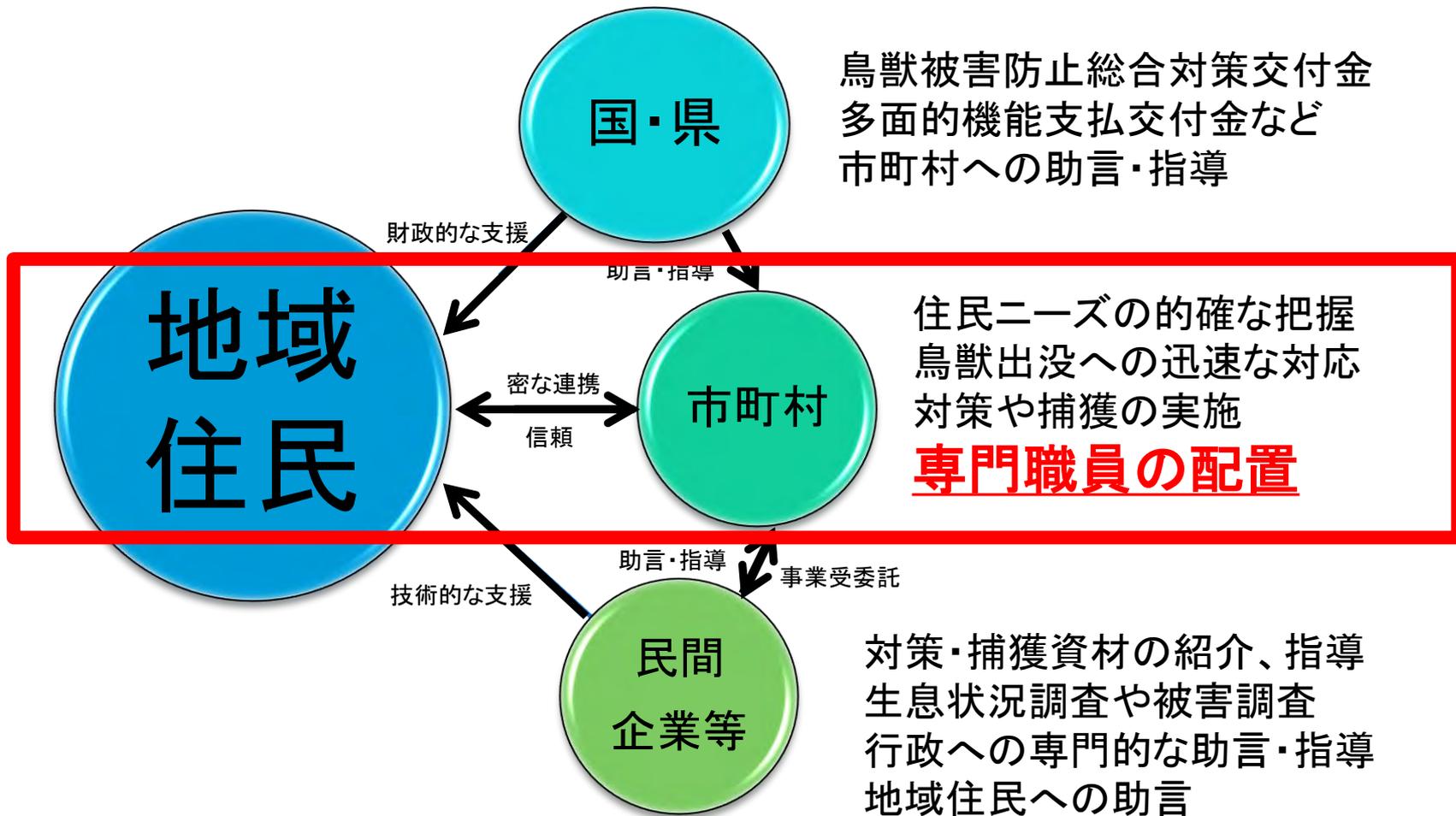
(鳥獣被害対策専門員4名)

平成22年度より専門員を配置し現在は地域おこし協力隊も含め4名で活動しています。

サルの群れのモニタリング調査やクマ・イノシシの被害対策、住民が実施する被害対策の普及啓発を行っています。



市町村の役割



A photograph of a white monkey sitting on a thick, dark tree branch. The monkey is looking towards the camera. The background is a dense network of bare, light-colored tree branches. A green speech bubble with a blue border is positioned above the monkey, containing Japanese text. The overall scene is outdoors, likely in a forest or park.

ご清聴ありがとうございました